KSKS

花の会ニュース

２０２１年４月号
no.188

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２－２　東興ビル４階　定価１００円

2021年4月開設のグループホーム

「でいじー」（1階）と「ひなげし」（2階）

（本文=6ページ）

花の会総会のお知らせ

日時　2021年6月19日(土)
10：00～11：50

場所　高槻現代劇場大ホール

※コロナ感染予防対策を実施の上で開催する予定です。

今後の状況によっては、中止（書面開催）する場合もあります。

一隅を照らす

前回、アフガンで亡くなった中村哲医師のことを載せたが、読者からの反響の大きさに驚かされた。「照一隅」は、中村医師の座右の銘であり、著書にサインをされているのをネットで見ることができる。比叡山を開いた天台宗の伝道大師・最澄の「国宝とは何物ぞ。宝とは道心（仏教を求める心）なり、道心ある人を名付けて国宝と為す。故に、古人言う、径寸（金銀財宝）十枚、是れ国宝にあらず、一隅（ほんの片隅）を照らす、此れ即ち国宝なり。」（天台法法華三家学生式）という言葉である。これだけではわかりにくいので解説を引くと、「一人ひとりが自分のいる場所で、自らが光となり周りを照らしていくことこそ、私たちの本来の役割であり、それが積み重なることで世の中がつくられる」との説明があった。「一燈照隅」という言葉もある。

自身を振り返って、パターナリズムという「やってあげている」意識が、当事者の自立を阻むものであることを常々伝えてきたが、採用面接時に履歴書に「お役にたちたい」という志望動機と出合うとき、「共に生きる」ことの大切さを伝えてきた。しかし、本人の正直な動機が「役に立つ」ことを目指すのは、道さえ外さなければ一隅を照らしたい思いとつながっていくと、反芻するようになった。また、立岩真也氏もパターナリズムが全て駄目なことではない、必要な場面もあるとも記されている。

且つて、「孤立を恐れず、連帯も求める」という標語が一つの時代を彩ったことがあった。今では忘れられているかもしれない全共闘運動の中で語られていた。東大の青医連闘争から始まった全国の大学・高校を巻き込んだ闘争であった。自らが、一歩を踏み出す時、何が自らを突き動かしているのかを知ることの大切さを思う。

また、人が何かを行う・行動するときに、今風の行動の結果だけを見て判断するような理解法では、人と人がつながるという時、人間同士の関係性ではあるが、行動の側面から判断することと、自身の体験も踏まえた他者の振る舞いを理解しようとする願いを持つ判断では、違う関係性の岸に立つことになる。　（やまだのかかし）

日中活動支援の報告　生活介護

坂　の　上　に

（父親）　　山名　利美

史（ふみ）くんは今、44 歳。花の会にお世話になり始めて、早くも 25 年になる。

中学は出たものの行くところがなくて、三中の、今は亡き廣田先生の紹介で建設資材のリース会社にしばらく母子で通った。しかしすぐに合理化で人員整理の対象になった。またもや廣田先生に伴われ、氷室町の借家住まいだった「花の会」を訪れた。若かった山田さんや中川さんが居た。

史くんは、今城塚近くの「花の会」に通い始めた。三中に登校するのは厭がったが、「花の会」に行く時は、そんな顔は見せなかった。すぐにワーカーのあの人この人を好きになり、バザーでは遠くからそのワーカーを見つけ、「…さん」と、嬉しそうに小声で言った。あるメンバーの後を、いつもくっついて動くようにもなった。メンバーの親にも、なついた。

組織が大きくなった「花の会」では、史くんは共働舎Ｃ班で農作業や内職をした。物販にも連れて行ってもらった。農作業では鍬や鎌を、物販では商品の籠を運ぶのが彼の仕事だった。連絡帳にはその日の仕事を、たとえば内職は「ないそく」と書いた。

そうした日々は、史くんにとっても親にとっても十分に幸せだった。そのまま共働舎で年月を過ごすものとぼんやり考えていたが、昨秋、「はなみずき」に行かないかと声がかかった。

いや、そんな…。無理ですよ。「はなみずき」と言えば、あの、新しいピンクの建物の食品関係をまとめた事業所。刃物も使うだろうし清潔さも…。第一、自閉の特徴としてモノにこだわりがあり変化に対応するのが難しい。環境の何かが変わるとパニックを起こす。心の重荷があると、それを 24 時間引きずって、防衛のために自分の世界に閉じこもる。それは、ワーカーの皆さんに対して、ホームの世話人に対して、迷惑にもなる。

「大丈夫ですよ、できますよ」とのワーカーの声に押されて、じゃ、そうしてみますか…と。

１月になって史くんは「はなみずき」に転属した。その数日後、作業中の史くんの写真が届いた。白い帽子と上着を身につけ、包丁を握って何かを切っていた。「ちくわ 90 本を切りました」ワーカーの文字で連絡帳にそう書いてあった。

あれま。できるんだ。

親にとって子どもは永遠に子ども。成長の跡は見えず欠点ばかり見える。何かをやらせる冒険よりも現状維持を選びがちだ。それじゃいけないと解ってはいても。さらに、障害を持つ子どもだからできることには限界があるとも思っていた。

違った。そうじゃなかった。「障がい」があろうとなかろうと、人は皆大きな可能性を持っていて、変わることもできるんだ。

そしてメンバーの真の姿を熟知し、可能性を引き出してきたのはワーカーの皆さんだということも、今回思い知った。ワーカーの、メンバーに対する思い（愛情と言うよりもっと大きなもの）やメンバーのいろんな側面を見ようとする積極性、共働の姿その他言葉にならないあれこれが、史くんを変えてきたのだろう。

全員がそうだとは言わないが、親は子どもの今を知らない。知らないまま子どもの将来を閉じている･･･ような気がする。ついでに言えば、親は子どもが過ごす場所がどんな所か、ワーカーの仕事ぶり、その熱意、志、あるいはワーカーの労働環境を、どれだけ知っているのだろうかと疑問にも思う。

月曜の朝、史くんは「キクチさん、待ってる」「更衣室、着替える」とつぶやいてリュックを背負い、自転車で家を出る。岡本町の急坂まで来ると、トコトコと自転車を押しながら坂を上る。名神の高架をくぐり、さらに上る。

坂の上には花の会がある。「はなみずき」がある。そして、いろんな人に支えられる史くんの毎日がある。

浅野しずきさんを偲んで

長年「チューリップ」でボランティアをしていただいていた浅野しずきさんが、2020 年 12 月 28 日お亡くなりになりました（享年 80 歳）。「チューリップ」が無認可の作業所として芥川商店街でリサイクルショップを始めたのが 1999 年 4 月で、それからすぐにボランティアとして、メンバーと共に活動を続けていただきました。

「チューリップ」にいる誰よりも、「チューリップ」やお客さんのことを分かってくださっているのが浅野さんでした。

関東出身ということで、標準語で常に穏やかに話をされていました。メンバーを〝一人の大人〟として接してくださり、メンバーも同じリサイクルショップの〝仲間の一員〟として一緒に仕事をしていました。私は７年間チューリップで浅野さんと一緒に活動しましたが、わからないことを聞くといつも丁寧に教えてくださいました。店舗が忙しい時は、時間を延長してもらうようお願いすると、「私で大丈夫かしら」と笑顔で返事をしてくれていました。いまだに浅野さんが「今日もよろしくお願いします」と入ってくるような気がします。

浅野さんはいつも凛としていて、おしゃれで、お茶目で本当に可愛らしい女性でした。いつも自分のメンバーに対する行動を振り返りながら真摯に向き合っておられる姿勢は、職員の方が学ぶことが多かったように思います。

浅野さんとつきあいが長いお客さんから、浅野さんを偲ぶ声をたくさんいただきます。温かい心で人を受け入れられる浅野さんに、どれだけ救われたでしょう。21 年に渡って貢献していただいた浅野しずきさんに敬意を表したいと思います。

（第４共働舎花の会　前田　恵津子）

「すみれ」閉店のお知らせ

2013 年３月１日、リサイクルショップ「すみれ」は第２共働舎花の会の直営店として、津之江町で開店しました。他の「花の会」のお店と比べると小さなお店でしたが、その分厳選した商品をお届けできるよう奮闘してきました。

そして、2018 年からは、第４共働舎花の会のお店として、各店舗と連携を取りながら活動を続けてきました。常連のお客様もでき、地域の方々ともつながりができてきていましたが、お店の売上を伸ばすことができない状況が続いていました。

なんとか“地域の中で”活動を続けていけないかを検討し、セールや宣伝等の対応策を行ってまいりましたが、この度、２月末をもって閉店させていただくこととなりました。「すみれ」で活動していたメンバーは、４月より「こすもす」や「スイートピー」など第４共働舎花の会の事業所に異動して活動しています。今まで「すみれ」で多くの方とつながりができたことは、メンバーにとって貴重な経験です。頑張っている姿を見かけたら、ぜひ声をかけてください。笑顔で「いらっしゃいませ」と迎えてくれると思います。

８年に渡ってご愛顧いただき、ありがとうございました。

（第４共働舎花の会
前田　恵津子）

児童支援の報告

１年間（計５回）の人権・権利擁護 虐待防止研修を終えて

研修受講を機に、課題に前向きに取り組んでいきます。

児童部門、レスパイト（短期入所・日中一時支援）では、一般財団法人フィールド・サポート em.代表理事の栗原氏に依頼し、１年間、人権・権利擁護 虐待防止研修を行ってきました。最終回となった３月は、「１年間の振り返りと、ご提案」と題して、１年間のまとめ、今後の人権・権利擁護研修についての提案をいただきました。

「虐待」や「不適切な支援」はなぜ起こるのか。栗原氏の話の中で、意識、知識（専門性）、環境の改善を具体的に進めていくための提案がいくつもありました。例えば専門性の向上。支援スキルや感情のコントロールを身につけること。環境・・職場コミュニケーション、風通しのよい職場（慣れ合いではない）、職員同士の連携、相談し合える信頼感の構築。また意識・・支援におけるひやりはっとの取り組み推進、集計と分析を行うこと、そして様々な角度から虐待につながる背景因子を取り除き支援での行き詰まりを摘んでいく重要性等、多くの気付きを得る研修となりました。

また事例検討（継続検討）を行うことで、改めて支援の難しさと重要さを「人権・権利擁護」の視点を入れることで感じました。具体的には、事業所の理念にも掲げている「本人の自発的な活動や自立に向けた・・中略・・支援を行う」というフレーズ。「自立」という部分についても、その捉え方についてメッセージをいただきました。自立についての広い考え方・・介護や支援を受けながら、自分の人生を自分で決め、エンジョイしていくという自立概念。そのために、職員一人ひとりに求められるコミュニケーション支援や意思決定支援の重要性。小さい頃から「認められた」という様々な経験を積むことで、自己肯定感が高まっていくこと・・その成果はすぐに出るものではなく、安心感、自信、達成感や満足感、効力感や有用感を長期的、継続的に育んでいくこと。そのため事業所が安全で安心できる基地に、そしてワクワクできるような場所になっているのか。ソーシャルスキルに加えてライフスキル（日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力〈世界保健機関（WHO）提唱〉）の獲得を意識することができているのか等、児童支援を行う上で支援者としてどうあるべきか、どう考えるべきか・・多くの問題提起がありました。

人権・権利擁護の視点、虐待防止は基本（ベース）で、研修はあくまで入り口。人権・権利擁護への意識を高めることは、本人主体が原則である支援の根幹につながることを再認識できました。栗原氏からの宿題はあまりに大きいですが、答えを紐解いていくため、何ができるのかしっかり考え取り組んでいきたいと思います。

（さくらクラブ　平田　昌史）

出 会 い と 別 れ と 可 能 性

子どもたちの成長を後押しし、信頼関係を築いていきます。

花の会に入職して今年で５年目になりますが、初めて異動することになりました。

新たな環境・・それは新たな人間関係、新たな場所での活動になり、子どもでも大人であっても不安なことです。私も慣れ親しんだ「あじさいクラブ」からの異動はとても不安で、いつも一緒に過ごしてきた子どもたちと離れることは寂しく、気持ちが落ち着きませんでした。ですが別れの後には、出会いがあります。新たな出会いは、新たな発見、新たな経験、そして様々な可能性があるように思います。これまでの経験を活かしながら、より多くの経験を積み、考え方を学び、支援の幅・視野を広げていきたいです。

まずは「さくらクラブ」の子どもたち、ご家族の方とたくさんお話をさせていただき、一つひとつの小さな気付きを大切にし、子どもたちの成長をそっと後押しできる、そして安心していただける、信頼していただけるような関係を作っていきたいと思います。右も左も分からない中、ご迷惑をおかけしますが、頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

（さくらクラブ　山下　由香）

地域生活支援の報告　グループホーム

ひやりはっと・事故報告の分析から

貴重な体験をスタッフ間で共有し、事故防止につなげていきます。

フラワーホームでは、2020年度にひやりはっと11件(表2)、事故報告72件(表1)の報告があがりました。この数は少ないと思います。特に、ひやりはっとは少ないです。勤務中に思わぬメンバーの行動や疲れからくるミスなどに「ひやっとした」ことが多々あると思います。多忙な中、報告書の作成も行うのは大変だと思いますが、こうした報告書は改善につなげられればフラワーホーム、法人にとっても宝になると思います。事故の処理も大変だったでしょう。合計83件の報告をあげていただいた方には感謝します。皆さんには決してペナルティではなく、皆が失敗しないためにも、自らの経験を共有するために報告書を作成してもらいたいです。本来であれば、分析の結果、検証してどう改善したのかを報告できればよいのですが、そこまでには至っておらず、今回は分析のみの報告でまとめさせていただきます。

事故報告では物損と紛失、ひやりはっとでは服薬が多いです。物損については、パニックによる私物の破損や感情の高ぶりによるものがあがっていました。紛失については、鍵や薬、金銭があがっています。服薬については事故報告とひやりはっとで合計10件あがっています。朝夕の薬が入れ違っていたり、飲ませ忘れもありました。服薬ミスがあると、すぐに主治医か処方された薬局に対応方法を指示してもらう必要があります。ミスを無くす取り組みも必要ですが、ミスした後の対応方法も周知、共有していきたいです。

その他が累計としては多いですが、その中でも自動火災通報装置関係の誤操作・誤作動等、使用上の注意や操作方法がわからずにあがっているものがありました。避難訓練を実施していますが、こういった機器の操作について研修する場も必要だと感じました。

事故報告（表１）

分類	転倒	転落	外傷	誤嚥	異食	服薬	物損	自傷	他害	行方不明	紛失	その他	車両
件数	4	1	5	1	0	6	14	0	3	3	14	17	4

ひやりはっと（表２）

分　類	転　倒	服　薬	その他
件　数	1	4	6

※分類には転落、外傷、誤嚥、異食、物損、自傷、他害、行方不明、紛失もあります。

（フラワーホーム　徳野　裕季）

☆「ひなげし」が移転、「でいじー」が開所しました☆

世話人を募集しています！！

昨年の本紙で、新ホームの建設について記事にしました。昨年の10月から着工した建設工事はスムーズに進み、半年足らずで完成しました。３月12日（金）に引き渡しが完了してから現場は怒涛の忙しさで、よく３週間足らずで引越しと開所にこぎ着けたものだと、協力していただいたスタッフには感謝以外ありません。毎度、新設や引越しを行った際に前もって準備して余裕を持って行えるようにと結論付くのですが、今回も慌ただしく、段取りは悪かったです。新設はまだまだ先になりますが、今回のことを踏まえて、工程表を作成しておかねばと思います。誰か手伝ってください。

○　「でいじー」の決定に至るまで

新設の「でいじー」ですが、「ひなげし」と同じく、女性のホームで定員が５名になります。「でいじー」は「雛菊」の洋名です。「ひなぎく」の案もあったのですが、「ひなげし」と混同する等の内々の事情で、「でいじー」に決定しました。「でいじー」の花言葉は、花の色によって異なりますが、「平和」「希望」といった意味があります。

○ 新ホームの利用について

利用される方は、体験利用を通してグループホームの本格利用につなげていくのですが、仲良く、新しい生活が希望に満ちたものであればと思います。ホームだけでなく、福祉は「安心」「安全」の上に成り立っていくものだと思います。

フラワーホームでは昨年から虐待案件が出ており、虐待を根絶するためにも、改善に取り組んでいるところです。メンバーも世話人も安心して生活・業務が行える平和なホームになるように努めてまいります。

現在、「でいじー」では体験利用からスタートし、すでに宿泊日数を増やそうかと相談を承っております。新生活がスタートしたところですが、人間関係やご家庭から長期間離れて生活をすることに少しずつ慣れてもらえればと思います。

○ 世話人として働いてみませんか？

新設し開所させましたが、まだまだ人材が不足しており、世話人に協力してもらいながらの運営になっています。福祉関係の資格は不要です。地域で暮らす障害者の生活を支えたい、「共に学び　共に働き　共に生きる」に共感できる、グループホーム・世話人に興味がある等々、様々な理由があると思いますが、フラワーホームの世話人として働いてみませんか？勤務時間は15時から翌９時30分（15時間勤務、３時間30分休憩）、月給17万円から、となっております。お知り合いの方もいらっしゃればご紹介いただければと思います。身内を紹介できるような組織にならなければとは思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

いっしょに働きませんか？

ご応募をお待ちしています。

詳細は、下記フラワーホーム事務センターまでお問い合わせください。

（電話 072-695-0500
担当=徳野）

（フラワーホーム　徳野　裕季）

～ 職 員 を 紹 介 し ま す ～

レスパイトより

今年度も、新たな気持ちで笑顔をお届けしま～す。

陽射しもやわらかくなりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？新年度を迎え、進級・進学された方、就職・異動された方もいらっしゃるかと思います。新たなスタートおめでとうございます。頑張ってくださいね！応援しています！

さて、新型コロナウイルスの流行は果たしていつまで続くのでしょうか？私たちもしんどい思いをしていますが、医療従事者の方々はもっと大変な思いをされています。医療従事者の方々への感謝の気持ちを忘れず、決して偏見・差別が無いよう心掛けたいですね。

レスパイトでは、感染予防に配慮しながら利用の受け入れを行っております。例年では花の会の敷地内にある桜の木の下でご飯を食べる事もしてきましたが、今年はドライブのお出かけ先で散歩をしながら桜を楽しみました。私たち職員から“ウイルス”ではなく、“笑顔と笑い”が届けられるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。新年度ですので、職員紹介と共に「コロナが収まったら一番行きたい所・したいことは？」との質問に答えてもらっています。

あと、職員の田邉ですが只今、育児休業中です！本人も戻ってくるのを楽しみにしておりますので、もうしばらくお待ちください。　（レスパイト　廣橋　孝之）

久保　富久子

温泉に行きたい！

若返り、ごちそうを食べて体力をつけた～い

大貫　愛

東京・ディズニーに行きたい！

マスク無しで大声で楽しみた～い

福尾　美穂

ライブ

20歳になったので居酒屋にも行きた～い

時本　英子

友人の新築祝いをしたい！

キレイな家を見てみたい

南曲　貴文

温泉と北海道一周のツーリングに行きた～い

長村　浩充

旅行に行きたい！

サンリオピューロランドに夫婦で行きた～い

藤田　敏一

東京にいる友達に会いに行きたい！

廣橋　孝之

海と山に行きたい！

キャンプとサーフィンがした～い

就労相談支援の報告

私　の　し　ご　と

就労支援センターフォルツァ　筒井　裕一

就労移行支援事業所での自立訓練の生活支援員が自分の肩書である。しかし、この肩書が『私のしごと』とイコールかと言えば、そうではないと思う。花の会にお世話になる前は、約 15 年間ボランティア活動をしていた。その時に自分に言い聞かせていた言葉､｢ボランティアはすぐ辞めることができる。だから､なおさら中途半端なことをしない｣｡だから、ある大会での大役をやり終えた後、自分の立ち位置が分からなくなり、その時点で辞めた。

現在は、もちろん、その時のボランティアの立場ではない。責任も当然、なおさらである。だからこそ、利用者に対してアドバイスなどしている時、自分はどれだけえらい人間なのか？と思ってしまう。無理な完璧さを求めない､無駄なわき道に入りたい、無難な自分の弱さに反発したい､無益なプライドを持ちたい、…そんな自分に何ができるのかと問えば、正直わからない。でも、そのわからなさの中で、アクティブにもだえ苦しんでいたいと思っている。結果は求めない。

（21 歳の夏、北アルプスにて）

花の会内部事業所と就労支援の連携について

就業・生活支援センターの仕事として、就業支援と就労定着支援があります。どちらも大切ですが、就職してその職場で働き続けるため定着支援を行う上で、他機関との連携は欠かせません。中でも就労移行支援事業所､相談支援事業所と連携する頻度は高く､花の会では｢フォルツァ｣と｢スキップ｣がそれに当たります。今年度の私のケースでは､休職中の知的障害のある方で､会社からリワーク支援の要望があり、「フォルツァ｣に依頼しました。その際、役所とのやりとりが容易ではありませんでしたが、利用が認められ半年間のフォルツァでの丁寧な支援の結果､無事に職場復帰となりました｡｢スキップ｣との連携では、登録者の様々な生活上での支援で連携していますが、希望者のグループホームの見学や利用に至るまでの支援をしていただき、当センターが体験利用中のグループホームと職場との通勤支援を行いました。また、２年前から「地域若者サポートステーション｣(以降、「サポステ｣)を花の会で運営することとなり、障害者枠での就職を希望しない登録者に「サポステ」を紹介したり、逆に「サポステ」の利用者が当センターに相談することもあります。他にも様々な事例がありますが、このように花の会の中で支援の連携ができることが、とても心強いと感じています。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター　宮﨑　佳子）

初開催！ フォルツァ オンライン卒業生の集いへの道

フォルツァでは、就職して卒業された元メンバーさんにお声をかけて、毎年卒業生の集いを開催してきました。昨年はコロナの影響で中止になったのですが、今年はZOOMで開催することができました。

情報通信技術の活用を否応なく迫られる昨今・・・フォルツァも時代の波に乗り遅れまいと必死のパッチで準備をしました。

まずは、何をおいてもスタッフのためのＺＯＯＭ研修！訓練室に集合しＺＯＯＭを立ち上げて、いざトライ！・・・そしてハウリングの嵐。そして静かにミュートの操作を覚えるのでありました。顔が映ったと言っては喜び、背景を変えては驚き、フレッシュなスタッフ一同でした。

当日はハウリングしないように、３名は所内に残り、それ以外は退勤時間にダッシュで帰宅！各自自宅から参加の布陣！

こんな記念すべき初オンラインの集いに集う猛者は卒業生さん３名！それぞれの発言から働いている姿が窺われ、うれしくて胸が熱くなりました。音声のトラブルなどありましたが、「聞こえないので踊ってください！」で乗り切ったりして･･･呑んでもないのに陽気な集いでありました♪とはいえ、来年はリアル開催で集まりたいものです。

（就労支援センターフォルツァ
福島　さくら）

コ ロ ナ 禍 で の 支 援

昨年の緊急事態宣言以後は、私たちの生活が大きく変わりました。学校は長期的な休校やクラスで午前午後に分けての登校等、仕事では在宅勤務やリモート会議等、飲食店では休業要請や営業時間の制限等、福祉施設等では様々なイベントが中止となり、感染予防が当たり前の時代となりました。

福祉従事者というのは人と関わる仕事です。勿論、私たち相談員も例外ではなく、当事者本人やそのご家族、各関係機関職員等、様々な接触が必要となっています。

この状況下で支援を行うべく、相談支援センタースキップでは会議を重ね、様々な感染対策を論じてまいりました。マスクや手洗い、うがいは勿論、事務所の定期的換気、職員デスクの間に透明のパーテーションを用意、来客者の消毒システムの完備、検温等。訪問時には消毒液を携帯し、入室前に手の消毒を行っております。事業所の車は使用後に消毒等。また、会議や研修等の殆どは法人内外に係らず、ほぼリモートで行っております。

持病のある方は感染リスクが高いとの事なので、極力ご訪問等の接触は控えるように電話連絡等で対応していますが、ご本人が面談をご希望される場合や、どうしても接触が必要な場合は、上記の感染対策を行いながらの支援を行っております。幸い、スキップの登録者の方やご家族には陽性者が出ておりませんが、別法人の生活介護事業所では陽性者が現れ、登録者の一部の方は濃厚接触の疑いがあったケースが数件ありました。スキップとしても緊張感を常に持ちながら支援に取り組んでおります。

本来ならば登録者の方やご家族のお顔を拝見して、お元気でいられるか直接確認をしたいと考えております。電話等の連絡のみでは十分な支援ができていないのではないかと疑問や葛藤があり、皆様とお会いできない状況を非常に悔しく思います。

2021年３月に緊急事態宣言が解除されましたが、既に第４波第５波と言われる感染者数の増加が見られます。長く苦しい時期が続いておりますが、コロナ禍が収束するまで、まずはご自身ご家族を一番に考えていただけたらと思います。

（相談支援センタースキップ　杉山　正人）

「希望の家」の新しいスタッフです

昨年 11 月より入職しました、田中弥生と申します。希望の家にてお仕事させていただいております。

失敗や子どもの用事にてお休みなど、迷惑をかけてしまう事がとても多いのですが、気にかけてくださり、暖かい声をかけていただいた事がとても嬉しく強く印象に残っています。

普段は３人の男の子の母をしており、毎日笑ったり、怒ったり、賑やかに過ごしています。

メンバーともこの先、一緒にたくさん頑張り、たくさん楽しみ、いろいろな経験をしながら、共に成長しつながっていけたらと思っております。

そして、希望の家ではメンバーが毎日、キャップの組み立て作業等にお互い仲良く、一生懸命に取り組み、１日に何万個のキャップを組み立てています。そして、コロナ禍で昨年は実施できなかったのですが、その作業収入で、暇を見つけては、近辺の日帰りの旅行などを楽しみ、毎年 12 月には１泊２日の忘年会を行い、そこでカラオケ大会などをして盛り上がっています。また、例年の旅行、そして、特に毎年恒例の２泊３日のディズニー旅行に、メンバーは大変喜んでいます。

一生懸命に作業に取り組み、一生懸命に遊ぶ。それが、気分転換を図りながら、自然と公共マナーを学び、成長していく一因になり得るものだと思っています。　（希望の家　田中　弥生）

プロフィール

趣　　味	：楽しい事探し、子ども達とのじゃれ合い 友達とお出かけ
嫌いな物	：お化けやホラー関係
好きな食べ物	：生クリーム、お寿司、お肉

「ワークたんぽぽ」の生産活動について

昨年、「就労移行支援」の廃止に伴い、「ワークたんぽぽ」に異動となり早１年が経過しました。以前よりメンバーとイベントには参加していたため、「おからかりんとう」や「ジェリーズポップコーン」の製造販売が大まかな生産活動とは知っていましたが、昨年はコロナ禍のため大きなイベントが全く開催されず、売上が最悪の状態となりました。

イベントでの収益が非常に大きな割合を占めていたため、ワーカーが話し合い新たな授産品として“洗える布マスク”を作ることとなり、異動後すぐの４月上旬にはマスク作りの資材（布・ガーゼ・ゴム紐など）を集め、いち早く販売を行い、飛ぶように売れたことが幸いでした。〈因みに、年間 1,600 枚売れました。〉小物製品作りでは、企業のノベルティグッズなども時々受注し作っており、メンバーの中には針や糸の扱いができるようになった方もおられます。

また、年間の売上では少ないのですが、軽作業（ネジの袋詰作業、週１回）、ポスティング（週２回）や公園の清掃（夏季・秋冬季）が１年間の基本的な生産活動としてあります。

昨年からのコロナ禍がいつ収束するかわからない今、新たな生産活動を考えていく必要に迫られているのが現状です。メンバーの就労に直接つながるような作業や仕事が見つかれば良いのですが・・・。　（ワークたんぽぽ　中田　秀紀）

法人の報告

法人運営協議会　の　報告

３月９日（火）に運営協議会を開催しました。他の会議と同様、換気やアクリル板の設置など感染対策をしての実施でした。内容は今年度の事業評価、来年度の事業計画への意見交換、職員採用面接に面接官としてメンバーが参加する取り組みの進捗報告、日中活動（生活介護事業）の満足度調査の内容について検討をしました。満足度調査の内容については、表現方法や設問数などメンバーが負担にならないよう改善を行った方がいいなど、協議をしました。

（業務執行理事　成瀬　修）

理　事　会　の 報　告

３月７日（日）に理事会・評議員会を開催しました。まだ肌寒い季節でしたが、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（障がい分）補助金で購入させていただいたアクリルパーティションで区切り、換気をしながら、会議を行いました。年度末ということもあり、来年度の事業計画、予算、今年度の補正予算などの議案が承認されました。また理事・監事・評議員の改選期になるので、それぞれの候補者を理事会にて承認しました。

４月の評議員選任・解任委員会で評議員の選任、６月の定時評議員会で理事・監事の選任、理事会で理事長、業務執行理事の選定を行う予定です。2017年に社会福祉法が大きく改正され初めての一斉改選となり、慣れないことが多いですが、滞りなく新体制に移行できるよう努めてまいります。

（業務執行理事　成瀬　修）

人権推進・虐待防止委員会 の 報告

３月 16 日（火）に虐待防止委員会を開催しました。ふすまにストッパーをかけることによるメンバーの閉じ込め、金銭の搾取によって、改善勧告を受けたフラワーホームの改善進捗状況についての報告、事故報告・ひやりはっと分析、虐待の疑いがあり通報をしたケースの進捗報告、虐待防止リーフレット案、来年度の取り組みについて意見交換をしました。

フラワーホームの改善状況については、毎月第２金曜日に身体拘束・行動制限廃止検証会議を実施し、身体拘束や行動制限を行っていないか、サービス管理責任者や地区担当者にて検討を行うようにしました。またサービス管理責任者や地区担当者が担当のホームを巡回できるよう勤務体制の整備に取り組んでいます。その他、預り金の管理方法の見直し、各種マニュアルの見直しなどを行っています。

フラワーホームだけでなく法人が運営する事業所全体の問題ととらえ、理事長をはじめ管理・監督職、現場の職員が一丸となって、虐待を起こさない組織づくりを行ってまいります。

2021 年度については、下記の取り組みを予定しています。

2021年度の予定

５月　虐待防止チェックリスト
７月　虐待防止委員会
９月　第三者委員による事業所巡回
11月　虐待防止委員会
２月　虐待防止研修
３月　虐待防止委員会

（虐待防止委員会　成瀬　修）

寄稿

田村智子先生

～「高槻障害児者と共に歩む会」～

立石　和郎

田村智子先生が亡くなってから、10 年以上の月日が流れてしまいました。その時はまだ 60 過ぎ、丁度一週間後に、連れ合いの博一さんも後を追うように逝ってしまいました。博一さんとも親友としてつき合わせてもらいました。博一さんとは、まだ高槻の市民運動が盛んな頃、いつも一緒に活動させてもらったのは良い思い出です。お二人ともとても個性的で、信念は曲げない人。まだまだやりたいことは、たくさん有っただろうに。早すぎる悲しい別れでした。

さて、今回の主題は田村智子さんについて、話を戻します。1970 年代当初から 1980 年代半ばにかけて、高槻教育は、まず、第６中学校を中心に、平和・平等・反差別を基調に（反対の声もありましたが）、理想的な教育として全国に名を馳せました。丁度 1970 年、それまで高槻には、公立高校は「島上高校」しか無かったところ、「三島高校」が新設校として開校することになりました。「三島高校」を定員割れさせない。高槻教育の運動を高校でも実践する。との全生徒・全教師・全保護者の願いで、地元集中受験運動が燃え上がりました。そんな運動の山場は、６中でのオール３Ｂ運動。人間を１～５の成績だけでランク付けすることは出来ない。また生活態度をＡＢＣ等でランク付けできない。何度も学年集会を開き、教師は夜遅くまで丁寧に家庭訪問を実施し、通知表を全員成績は３、生活態度はＢ、という先進的で画期的なことをやってのけ、全国から絶賛を受けたのです。丁度そのころから、「一部の極右反動勢力」が、毎日６中の周りに宣伝車を何台も走り回らせ、聞くに堪えない罵倒を浴びせ続け、授業をなり立たなくしてしまいました。情けないことに「高槻市教育委員会」は、不当な力に屈し、６中で中心になった先生たちを各学校に配置転換してしまいました。田村先生もそんな中の一人です。でも各学校に散った先生たちは、各校で「在日韓国・朝鮮人に対する反差別教育」「障がい者と健常者が共に生きる共生教育」「部落解放教育」等に取り組んでいきました。

田村先生は、「障がい者」のことについていろんな角度から懸命に取り組みを進めました。「高槻市立養護学校」の設立運動にも関わり、自ら「高槻市立養護学校」の教師にもなりました。摂津峡公園の清掃の仕事「高槻市非常勤職員」（障がい者雇用）づくりにも中心的に関わり、「障がい者公務員雇用」の道も作りました。そして、何といっても田村先生といえば、「高槻障害児者と共に歩む会」（通称「共に歩む会」）高槻の「共生教育」の精神を“卒業で終わり”ではなく、その後も継続していこうと言うことで、中学校区ごとに学年を超えて、また学年ごとに「さかだち」「松ぼっくり」などいろんな名前でサークルが立ち上がり、全盛期には、入れ代わり立ち代わり約 20 グループほどのサークルがそれぞれ活動していました。全体の活動としては、それぞれのサークルの代表が、１か月に１回集まりを持ち、夏には、毎年、全体合宿、春のキャンプ、予算についての成果はあまり得られませんでしたが、対市交渉も行っていました。田村先生は信念の強い人。その分癖もあり、離れていった先生も何人かいますが、ほぼ田村先生一人で取り仕切っていました。やはり強い信念を持った田村先生抜きには、「共に歩む会」の活動は、無かったでしょう。

田村先生亡き後、細々と活動しているグループも有りますが、ほとんどのサークルは四散し、「共に歩む会」としての全体活動も無くなってしまい、寂しい限りです。

花の会のメンバーの中にも、「共に歩む会」に参加していたメンバーもたくさんいます。ついこの間、その中の一人の女性と話をしていたのですが、「共に歩む会」のことを、とても懐かしがられていました。「同窓会でもいいから、一度したいなぁ」とも言っていました。出来れば、夢に終わらせず、「同窓会」ぐらいから実現していきたいものです。

萩谷月見台の用地寄贈　ありがとうございました

昨年 12 月 21 日、高槻市萩谷月見台にある宅地、４筆、923.07 ㎡を、青木敬司様より寄贈いただきました。

経過は、地域の支援者の方から、土地をお持ちで、福祉に活用を考えておられる方がいらっしゃるとのことで、森本幸成様を紹介いただきました。森本様は、高槻にお住まいで教員等もされていた経過もあり、福祉に役立てたいと親族である青木様の用地を、花の会で役立てないかとご寄贈を申し出ていただき、つい先日に登記を済ませたというものです。

南平台の共働舎花の会からは、車で 5 分と距離的にも近く、萩谷公園にも近接しており、事業所の農作業用の農園や、レクリエーションの実施場所に活用を今後考えて、整備を進めていく予定です。

森本様　青木様　　メンバーに活動の場を提供いただき　本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

（理事長　山田義昭）

「社会貢献」という言葉を超えて

近年、社会福祉法人の社会貢献の実施が謳われるようになっています。社福法人の繰越金（内部留保金）が多額であるため、一定程度を超える決算となる時は「社会貢献事業」や施設の整備等に支出が義務づけられるようになりました。

花の会は、地域の皆さんと共に、その支援を受けながら法人化を行い、施設や事業の整備を行ってきました。建物には「地域交流スペース」を設けたり、災害時には福祉避難所とできるように準備を行っています。しかし、繰越したお金で地域への社会貢献を行うという発想で、講演会を開催したり、バザールをやって多くの方に来ていただいたりしてきたわけではありません。共に何かを創り出せたら楽しいだろうな、というような発想でやってきたように思います。

今は、コロナ感染防止のために、直接的な接触が憂慮されてしまい、活動ができていないこともありますが、一端を紹介します。

＊「Ohana 食堂」（栄町）というこども食堂を始めた途端、コロナに襲われました。

＊「てんじん“出灰”ファーム」　正しく、出灰（高槻市の北部山間）にありネーミングからもわかるように、上宮天満宮様の神社をお預かりして、市内の事業所の活動に供しようという取り組みですが、此れも風水害により道路が最近まで通行出来ない状態が続いていました。

＊「（未定）」　（富田団地）での子育て支援の取り組みの実施を計画中で、まだ、名前も内容も決まっていません。

＊「好きな者会議」 居場所提供　月１回最終金曜日、三島地域若者サポートステーションにて実施。

＊「マジックアワー」　居場所提供　月１回第１金曜日、フォルツァにて実施。

（理事長　山田義昭）

花の会の報告

親族後見をすすめる会の活動と今後に向けて

○「親族後見をすすめる会」について

現在「親族後見をすすめる会」として活動していますが、成年後見制度の分類の中で、「親族後見」だけにとらわれず（家族以外が後見人となる第三者後見・・弁護士、司法書士、社会福祉士、市民後見人、そしてNPO法人、社会福祉法人等「法人」で後見人を行う、法人後見などがあります）、成年後見制度とは何なのか、将来に向けて必要なのか・・一緒に考えていく中で判断材料の１つとなればと様々な企画（研修）を実施してきました。

○ アンケートを実施しました。

しかし2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策でと、行事、イベント、研修、交流等の延期、または中止という状況が続く中、「親族後見をすすめる会」の活動も、ご多分に漏れず完全休止状態になりました。委員の中で何かできることはないかと考えた結果、花の会全会員（児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、グループホームを利用されているご家族の方全員）に向けて、アンケートへのご協力をお願いし、今後の「親族後見をすすめる会」の進め方について考えることにしました。

アンケートの集約方法として、利用されている事業が「児童事業」の方と「成人等事業」の方と大きく２つに分けて集約することとしました。利用者の年齢が上がると、成年後見制度の利用について具体的に考えようとしている方が増える一方、将来必要になる可能性があると思いながら、検討するという１歩目が踏み出せない方も多数おられること。児童発達支援・放課後等デイサービスの利用者のご家族の方は、まだ先の話ということがありながらも、今から制度について基礎的なことから知りたいという意見もありました。

○ アンケートで見えてきたこと

今回アンケートの集約から、会として取り組むべき２つの方向性が見えてきました。１つは、「成年後見制度とは何なのか、ゼロから考える」。もう１つは「具体的に利用を考えている方へ向けた研修」。いずれも企画、実施してきたことではありますが、再度、日程・時間等、皆様が参加しやすいように、また内容が分かりやすいものになるよう考え、より多くの会員の方にご参加いただき、一緒に学び合い、交流する機会を作っていきたいと思います。コロナ禍、３密対策など課題はありますが、１つずつクリアし、今年度中には活動を再開させたいと思います。

アンケートご協力のお礼

アンケートは、約260世帯に配布し、約110世帯からご回答を得ることができました。貴重なご意見をありがとうございます。

細かな報告については、全会員の皆様に４月中の配布を予定しています。ご提出いただいてから、ご報告に時間がかかりまして申し訳ありません。ニュースの発行時期にはお手元に届いていると思いますので、よろしくお願いいたします。

（親族後見をすすめる会　平田　昌史）

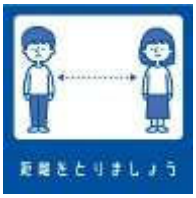
お父さんの会（Next Flower Party）の振り返りとこれから

お父さんの会は、2015 年８月に発足し、花の会活動に於ける父親の参画拡大のために交流と意見交換の場を設け、花の会活動の活性化と次世代の花の会を担う人材育成につなげること。又、家族とワーカーのつながりを強めることを目的としてスタートしました。

当初は、交流の場をつくることから取り組み、「薫製窯つくり」と「薫製つくり」、「男の料理教室」を開催してきました。しかし、お父さんの参加者は少なく、ワーカーの参加者の方が多い状態が続いています。

打開策の一つとして「中期計画の継続的な取り組み課題チーム」の中に「次世代の参画促進チーム」を加え対象を会員全体に広げ、各種イベントを企画実行して交流の機会を増やし、その中でお父さんの会の活動に参加していただけるように勧誘できたらと思っていました。

しかしながら現在、コロナ禍の中でイベント開催は難しく、バザーや夏祭り等のイベントも中止され、次世代の参画チームの新たなイベント企画も企てられない。また、会員には高齢者が多い、基礎疾患を患っている方もいるであろうことから、イベント開催は難しく休止を余儀なくされています。諸活動の制約事項として、３密（「密閉」「密集」「密接」）を避けることが求められ、ワクチン接種が本格化し治療薬が開発されるまで、この状態が続くものと思われます。現在、制約を回避しながらの活動のあり方を思案しているのが現状です。



ある程度の人員が活動するためにはソーシャルディスタンス、即ち人的接触距離を確保する必要があり、屋外での活動が一番目に思い浮かべられ、二番目にメンバーのためになる活動はないかと思いめぐらせると、生産活動関連のことが来るかと思います。このことを踏まえると、私案の段階ですが、これから畑にしようとしている土地の整備ボランティアを会員の中から募り少人数でローテーションを組み活動を再開できないかと思っています。これから関係者と意見を交わし、他アイデアの掘り起こしと実現可能な案であるか検証していきます。また、皆様には些細なことでもよいので、ご提案をいただければと思っています。ご協力よろしくお願いします。

連絡先：電話 072-697-7033
花の会事務長　牛嶌

（花の会代表　上田　充孝）

活　動　報　告

	花の会			法人			日中活動		
２月	22	月	役員会	5 15 19	金 月 金	事務局会議 事務調整会議 事業運営会議	3 5 10 16～18	水 金 水	企画会議 メンバー給料日 全体調整会議（分会） 事業所別会議
３月	7 11	日 木	第172回花の会定例会（中止） 親族後見をすすめる会 役員会（第29回）	5 7 9 12 15 16 19 22	金 日 火 金 月 火 金 月	事務局会議 理事会・評議員会 運営協議会 GH大和 竣工式 事務調整会議 虐待防止委員会 事業運営会議 府　定款変更承認	3 5 10 12 16～18 31	水 金 水 金 水	企画会議 メンバー給料日 全体調整会議(リモート) メンバーボーナス支給日 事業所別会議 総括・方針会議(分会)
４月				2 3 15 16	金 土 木 金	事務局会議 評議員選任・解任委員会 事務調整会議 事業運営会議	1 5 7 14 20～21	木 月 水 水	新年度スタート メンバー給料日 企画会議 全体調整会議(リモート) 事業所別会議

	地域生活			就労・相談			児童支援		
２月	3 5 12 15 24	水 金 金 月 水	大和説明会 運営会議 大和選考会 事例検討会 企画調整会議	3 10 26	水 水 金	運営会議 主担会議 就業・生活支援センター運営協議会	10	水	児童部門会議
３月	5 12 13 15 17 19 25	金 金 土 月 水 金 木	運営会議 身体拘束・行動制限廃止検証会議 総括・方針会議 事例検討会 大和現地説明会 大和竣工式 振返り研修	3 9	水 火	運営会議 総括方針会議	10 12 17	水 金 水	児童部門会議 事業所連絡会 児童部会 人権・権利擁護研修
４月	1 2 9 19 23 28	木 金 金 月 金 水	でいじ一開所 運営会議 身体拘束・行動制限廃止検証会議 事例検討会 内部研修 企画調整会議	7 13	水 火	運営会議 主担会議	14 21	水 水	児童部門会議 研修・企画検討会

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円

「公益信託　近藤きよ子記念福祉基金」助成金により取得した印刷機を使用して印刷された出版物です